

連載小説
新編 切小説

竹やんの酒

日野善太郎

②

「ニュース寸評」生コンと失業保険と

⑪

「れんさい」鑑ヶ崎手帖へハ」 いちぢ

⑬

とせいぞんごんぽん」渡世伝言板

⑮

読者之声」どくしゃのこえ

⑯

小特集 追悼・船本洲治同志

「写真」一九七三年四月、仲間と語るコーちゃん（対木福三郎）

⑮

こうちゃんの自決とおいらの野にれ死に

野中五郎

⑮

敗北的自殺でなく死に賭けた生き様として

仲場保

⑮

船本同志へ——勇敢なる位置に立つた戦士たちへ——

入船次郎

⑮

☆怒念と屈辱の生活の総体を熱いダイナマイトにかえて

虎ヶ崎次郎

⑮

（川松本洲治）

☆別冊の「ホーおじさん」の死

※ 表紙題字のバックの「腹をたてる……」へ原物は各行末に「な」がつく「腹」というのは釜の中に「肝」を明くるくする会へへ（船本とは無関係）がはった物を写真で約4に縮少。

「酔った酔ったよ五勺の酒で

酔った目で見りゃスベタも美人

バット一本ふたつに折って

わけて喫うのもおつなもの

ワッハッハッハッハッハッハ

スツカラカンの空財布

てもルンパンのん気だね

フ口の天国木貨ホテル

抱いて寝てみりゃ膝っこも可愛い

柏布団で時雨をきけば

死んだ女房が夢に來た

（の部分くりかえし）

——柳水巴作「ルンパン節」（一九三二）